

群馬県前橋市
前田Ⅱ遺跡

エヌ・ティ・ティ中央移動通信群馬支店社屋
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 1

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



序

前橋市は北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南へ貫流する利根川の清流は「水と緑と詩の町」を潤し、かつては「糸の町」として養蚕製糸で栄えてきました。今人口28万余を擁し生涯教育都市を目指し、教育文化・商工業の調和のある「豊かで、すばらしい社会を築く、街づくり」を進めています。

前田II遺跡の所在する東善町は中心市街地から南東約8Kmに位置し、南部の町界は伊勢崎市、佐波郡玉村町に隣接し、一级河川利根川右岸に沿った前橋台地の南端にあり、高崎市、勢多郡大胡町、更に玉村町を経て多野郡新町、藤岡市へと道路交通に至便の地であります。

周辺は金冠塚古墳や国指定史跡の八幡山古墳など古代の遺跡が点在し、中世の古文書に残る善養寺荘の荘名があり、江戸期慶安年間に山王村・中内村・駒形新田(駒形町)を分村した。等々昔を今に伝える地域であります。

この調査は民間開発行為により、エヌ・ティ・ティ中央移動通信株式会社社屋建設にさきがけての埋蔵文化財発掘調査を実施したものであります。調査では平安期の住居址14軒・ビット45ヶ所・土坑1基を確認した他、多数の土師器・須恵器などの遺物を検出し、記録保存いたしました。

この調査報告書を刊行するにあたり、多くの方々の御理解と御協力を得たことに對し厚く御礼申し上げます。

平成3年11月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 遠藤 次也

例　　言

- 1 本書は、都市計画法第29条の開発行為（宅地造成事業実施）の許可に先がけた開発予定地の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、立合者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 遠藤次也）の立ち合いのもと、委託者 エヌ・ティ・ティ中央移動通信株式会社の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町211-1代表取締役 須永眞弘）が実施した。
- 3 調査担当者 新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団 発掘調査係員）
荻野博巳（スナガ環境測設株式会社 調査員）
- 4 遺跡名 前田Ⅱ遺跡 略称3G-7
- 5 所在地 前橋市東善町123-1番地
- 6 調査期間 発掘 平成3年7月10日～平成3年8月20日
整理 平成3年8月20日～平成3年11月30日
- 7 調査面積 400m²
- 8 出土遺物は、前橋市教育委員会に保管する。
- 9 本書は調査団の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財調査部（専務取締役兼部長 金子正人）が作成に当り、編集を須永眞弘、校正を金子正人、執筆を荻野博巳、測量図書の整理校正を勝田貞幸（調査助役）、遺物の復元・実測・計測を石島正二・佐々木智恵子・角田朱美・大島由利、造構トレスを小林裕美、写真製版を鈴木赳夫、内業事務を須永豊が担当した。
- 10 測量・調査計画を須永眞弘（測量士 第52614号）が行い、調査の指揮指導を荻野博巳、造構遺物写真撮影を荻野博巳・勝田貞幸が当った。測量と測量指導は板垣宏（測量課長）・勝田貞幸・棒沢高幸（測量主任）・佐々木智恵子・角田朱美・大島由利が当った。発掘調査の安全管理は勝田貞幸が行った。作業事務を柴崎信江が担当した。
- 11 調査に協力を戴きましたエヌ・ティ・ティ中央移動通信株式会社を始め、地元の方々及び調査並びに整理に際して指導、助言を賜った各方面の方々に深甚なる感謝を申し上げます。
- 12 調査に参加した方々（順不同）
内山恵美子 中川類子 小野沢はつ江 深沢千代 山崎勘治

凡　　例

1 造構名・略称

造構名と略称は次の通りとした。

土師器住居址 - H ピット - P 土坑 - D 墓 - L

遺物名・略称

土　　器 - P 石 - S (断面図に使用)

- 2 実測図の縮尺
 全体図 S = 1/200 住居址 S = 1/60 窓 S = 1/30
 ピット S = 1/60 土 坑 S = 1/60 遺物実測図 S = 1/1 • 1/2 • 1/3
- 3 挿入図 1/5 • 2/3
 国土地理院発行の5万分の1「前橋」「高崎」を使用した。
- 4 遺跡の位置の基準
 基準点 国土地理院三角点及び水準点を照合済み
 A-0 地点 第IX系 座標値 $x = 38,038.000m$ $y = -63,116.000m$
 水準点 BM H = 77.50m
 等高線 5cm
 グリッド 4m 間隔
- 5 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」による。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査の概要	1
1 調査に至る経緯	1
2 発掘調査の経過	1
3 標準堆積土層	2
第2章 遺跡の立地と環境	2
第3章 遺構と遺物	4
(1) 住居址	4
(2) ピット	11
(3) 土 坑	13
第4章 まとめ	14
出土遺物観察表	16
遺構実測図	第3~19図
遺物実測図	図1~5
図 版	図版1~8
全体平面図 (S = 1:200)	第20図

第1章 調査の概要

1 調査に至る経緯

前田Ⅱ遺跡は宅地造成工事に伴う都市計画法29条の開発行為の許可にさきがけて前橋市宅地開発指導要綱（昭和48年前橋市告示第10号）第9条（文化財保護）の規定により開発事業者エヌ・ティ・ティ中央移動通信株式会社から市教育委員会に事前協議があり、確認調査を行ったところ平安時代の住居址及びピット、土坑を確認した。開発事業者と協議調整のうえ平成3年7月10日から発掘調査を実施することになり、前橋市教育委員会のもとに組織している前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立ち会い指導のもとにスナガ環境測設株式会社が発掘調査に着手した。

2 発掘調査の経過

経過は次の通りである。（調査日誌抄）

平成3年7月10日 作業事務所設置、機材の搬入

7月11日 重機にて表土掘削作業開始、基準点座標杭の設置

全体平面図（1:200）作成開始

7月17日 ジョレン搔き、プラン確認作業開始

調査区内に地下水が湧く為本日からポンプ3台で排水作業を始める
(8月15日まで続く)

7月19日 水準点(BM)、グリッド杭設置

7月22日 ピット・土坑調査開始、写真撮影開始

7月23日 住居址調査開始、平面・断面図(1:20)の測量開始

7月27日 遺物上げ開始

8月3日 竈の調査開始

8月10日 住居址掘り方の調査開始

8月15日 調査区内清掃、全体写真撮影

8月20日 土砂埋戻し、あとかたづけ、調査終了

整理作業

8月20日 遺物洗浄開始

8月26日 測量図面の整理作業開始、原稿執筆開始

8月29日 遺物注記開始

8月30日 測量図の製版カメラによる縮小作業開始

住居址床面積の図上計測を行う

9月11日 遺物接合、石膏入れ作業開始

9月18日 遺物実測開始

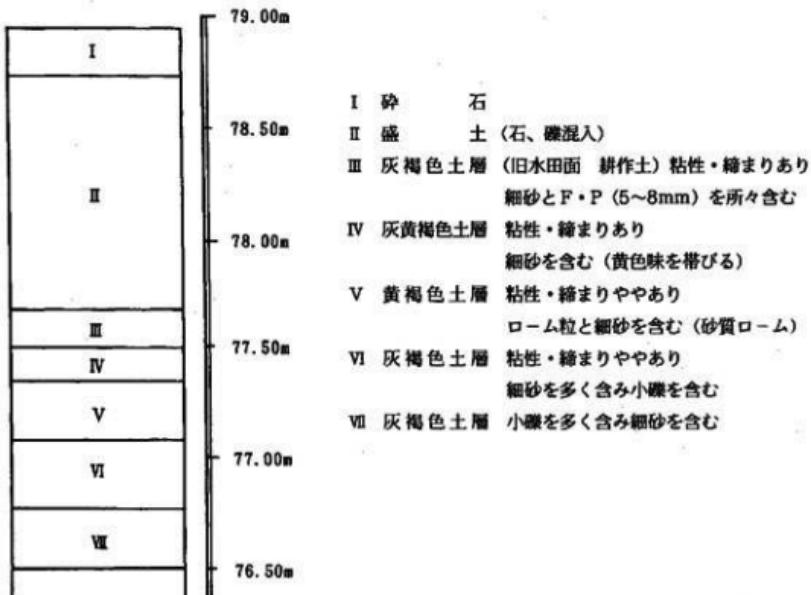
10月1日 報告書の原稿校正、編集作業開始

10月14日 遺物写真撮影を行う

12月5日 報告書原稿印刷

3 標 準 堆 積 土 層

第 1 図 標 準 堆 積 土 層



第 2 章 遺 跡 の 立 地 と 環 境

前田Ⅱ遺跡は前橋市の中心市街地から東南約8Kmの東善町内にあります。主要地方道高崎・駒形線が東西に走り、これに主要地方道藤岡・大胡線が南北に走って乗り入れ、更に市道00-96号線が朝倉町-広瀬町-山王町-東善町を乗り入れる交差点があります。それがこの東善町交差点であります。この交差点を駒形町へ向かって400m程行き一級河川蘿川に架かる駒形橋を通り200m程で駒形町を北西に縦断する主要地方道前橋・古河線に出ます。これより北西へ8Km前橋市街地、北へ8Km勢多郡大胡町、東南へ7Km伊勢崎市街地に至る道路交通の要所であります。主要地方道の整備された昨今、東善町交差点に面して通運・運輸・倉庫など大企業の社屋が立ち並び急速に市街化が進んでいます。この交差点の南東に位置するのが前田Ⅱ遺跡であります。

第 2 図 前田Ⅱ遺跡 周辺遺跡の位置図 ($S = 1 : 50,000$)



- | | | | | |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| ① 前田Ⅱ遺跡 | ② 前田遺跡 | ③ 文珠山古墳 | ④ 善養寺 | ⑤ 金冠塚古墳 |
| ⑥ 木ノ宮遺跡 | ⑦ 龜塚山古墳 | ⑧ 経塚古墳 | ⑨ 天神山古墳 | ⑩ 坊山遺跡 |
| ⑪ 後閑田地遺跡 | ⑫ 後閑Ⅱ遺跡 | ⑬ 八幡山古墳 | ⑭ 倭文神社 | ⑮ 火雷神社 |

第3章 遺構と遺物

調査地は、前田遺跡（1991年3月調査報告書）で住居址など多くの遺構の検出地点から100m程の北西に位置している。現地は在来農地を約1.8m盛土して宅地化したもので遺構確認面は地表から1.60m～1.80mを堆土した標準堆積土層図第V土層で土師器住居址14軒、ピット45ヶ所、土坑1基の確認をした。

（1）住居址

1号住居址（第3図、図版1）

調査区の西壁C-0・1からD-0・1グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある灰褐色・暗褐色土が堆積している。

一部北壁が調査区域外にあり、東壁側は2号住居址、15号住居址に一部張り出して重複している。新旧関係は、遺構確認時より範囲がはっきりし全体が残っていることにより本住居址が他の住居址より新しいと思われる。

住居址の形状は長軸（南北方向）2.90m、短軸（東西方向）2.66mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-6°-Eを測る。確認面から17cm程掘り込んで床面に達する。床面は第V、VI土層を掘り込んで作られ、全面に8cm程の貼り床が見られる。床面積は6.3m²を測る。ピット、壁溝は確認されなかった。

掘り方は全体に平坦であるが住居址西壁寄りに長径150cm、短径80cm、深さ2～3cmの不整形の落ち込みや、中央付近には長径44cm、短径42cm、深さ5cm程の円形や長径50cm、短径24cm、深さ3cm程の不整形をした落ち込みも見られた。

竈は南東側のコーナーに位置し15号住居址内に張り出している。覆土は灰、焼土粒を多く含む暗褐色・灰黄褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-135°-Eを測り、コーナーに構築されている。

竈の寸法は全長105cm、焚口部幅50cm、燃焼部長+焚口部長=70cm、煙道部長35cm、煙道部立ち上がり角度29°を測る。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器などの破片がほとんどで、総数141点出土している。実測、図示したものは、竈より出土した土師質土器塗（H-1竈1）がある。時期は10世紀後半代と思われる。

2号住居址（第7図、図版1）

調査区B-1・2からC-1・2グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある灰褐色土が堆積している。住居範囲は、東壁側の大部分がごみ穴で破壊され竈も不明である。南壁側は1号住居址、15号住居址と重複している。新旧関係は地層断面の切り合いから旧い順に2号-15号-1号と思われる。

住居址の形状は、遺構の重複と建設廃材のごみ穴で擾乱され北壁側を残して他は確認出来なかった。確認面から16～20cm掘り込んで床面に達する。床面は第V土層を掘り込んで作られている。ピット、壁溝は確認できなかった。

遺物は土師器壺、須恵器壺・甌などの小破片がほとんどで、総数162点出土しているが復元には至らず、一部破片より9世紀後半～10世紀代の特徴を持つ土器も見られた。

3号住居址（第4・5図、図版1・2）

調査区D-1・2からE-1・2グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある灰褐色・暗褐色土が堆積している。北壁側は15号住居址と重複している。新旧関係は、15号住居址の堆積土層を壊して本住居址が新しく構築されている。

住居址の形状は長軸（南北方向）4.6m、短軸（東西方向）4.0mの隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-6°-Eを測る。北壁に対し南壁が1.0m程長く東側へ広く測れた。確認面から6~10cm掘り込んで床面に達する。床面は第V土層を掘り込んではほぼ平坦に作られている。床面積は14.9 m²を測る。

ピット、壁溝は確認されず、北壁側に土坑が1基確認された。形状は長径156cm、短径94cm、深さ22cmの楕円状を呈す。

竈は東壁の中央やや北寄りに位置し、竈の主軸方向はN-59°-Eを測る。覆土は炭化物、焼土粒を多く含む褐色・暗褐色土が堆積している。

竈の寸法は全長100cm、焚口部幅70cmを測り、燃焼部は床面より7cm掘り込まれている。

遺物は土師器壺、須恵器壺・甌、土師質土器壺、灰釉陶器甌などの小破片がほとんどで、総数181点出土した。図示出来たのは土師質土器環（H-3-1）、磁石（H-3-2）の2点である。時期は10世紀後半と思われる。

4号住居址（第8図、図版2）

調査区の西側D-1・2グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある灰褐色・黄褐色土が堆積している。東壁側は5号住居址と西壁側は15号住居址と重複する。北壁側はごみ穴で破壊され南側の一部を残すのみである。新旧関係は本住居址が5号、15号住居址によって切られていることから本住居址が古い。

住居址の形状は、住居範囲の一部が確認できたのみで全体は不明である。

床面は第V土層を6~10cm掘り込んで作られており、ほぼ平坦な床である。ピット、壁溝は確認されなかった。竈は不明である。

遺物は土師器、須恵器の小破片のみで総数120点出土した。図示したものは土錐（H-4-1）、擦石（H-4-2）である。時期は不明である。

5号住居址（第8・9図、図版2）

調査区の中央寄りC-2・3からD-2・3グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある暗褐色・黄褐色土が堆積している。西壁側は4号住居址と重複している。北西壁コーナーはごみ穴で破壊されている。新旧関係は本住居址が4号住居址を掘り込んで新しく構築している。

住居址の形状は長軸（南北方向）4.2m、短軸（東西方向）3.52mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-3°-Eを測る。確認面から20cm程掘り込んで床面に達する。床面は第V、VI土層を掘り込んで作られ、全面に6~12cmの貼り床が見られる。床面積は調査範囲で12.3 m²を測る。

壁溝は確認されず、土坑とピットが合わせて3か所床面から下記の通り確認された。

ピット・土坑の名称	形状寸法 cm				備 考
	形状	長径	短径	深	
P-1	円	31	30	12	北西寄り 底部より楕円状の扁平な石出土（礎石）
P-2	円	29	28	12	中央部や北寄り底部より楕円状の扁平な石出土（礎石）
D-1	楕円	84	70	17	北東コーナー 土師器・須恵器片出土

また上記の他に貼り床下（掘り方）から床下土坑と思われる楕円状の長径80cm、短径74cm、深さ8cmと楕円状の長径120cm、短径76cm、深さ10cmの土坑と北壁寄りと中央から南壁へかけて3~10cmの不整形な掘り込みも見られた。

竈は東壁の中央や北寄りに位置し、焚口付近の床を10cm程高く作られている。また竈燃焼部がなだらかに5cm程掘り込まれ中央に径25×20cm厚み8cm程の支脚石と思われる石が1点検出されている。覆土は粘性で締まりのある炭化物・焼土粒を含む灰褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-88°-Eを測る。

竈の寸法は全長140cm、焚口部幅75cm、燃焼部長+焚口部長=85cm、煙道部長55cmを測る。

遺物は土師器壺・壺、須恵器壺・壺などの破片が総数357点出土している。図示出来たものは土師器壺（H-5-1）・壺（H-5-3）、須恵器壺（H-5,D-1-1）・壺（H-5-2）、鉄製品（H-5-4）、鎌（H-5-5）、自然石（H-5竈1）など7点である。時期は10世紀前半と思われる。

6号住居址（第10・11図、図版2）

調査区の北壁寄りに位置し、B-4・5からC-4・5グリッドに位置する。覆土は暗褐色土と粘性で締まりのある黒褐色土が堆積している。

住居址の形状は長軸（南北方向）5.20m、短軸（東西方向）5.06mの隅丸方形を呈し、主軸方向はほぼN-0°-Eを測る。確認面から12cm程掘り込んで床面に達する。床面は第V、VI土層を掘り込んで作られている。床面積は22.7 m²を測り、壁溝は確認されず土坑、ピット等を合わせて15か所確認した。土坑は南東寄りに1か所確認した。ピットは中央に2か所、壁側に12か所を確認した。その中でP-4、P-10、P-11からは底部より礎石と思われる扁平な河原石を検出した。他の壁際のピットは配置の規則性などは、はっきり認められないが形状から壁柱穴になると考えられる。床面には焼土粒・炭化物・ロームブロックを含む灰黃褐色土が堆積していた。

竈、炉等は確認されず西南寄りにわずか焼土範囲が見られたがほぼ床面全体に焼土粒・炭化物などの混入が見られた。また床面は全体に6~9cmの貼り床が見られ、掘り方で長径160cm、短径110cm、深さ17cmの楕円状の床下土坑が1か所と住居址北側と南側にかけて4~10cmの落ち込みが確認された。

遺物は土師器壺・壺、須恵器壺などの破片の他に土製品土鍬、古銭など総数462点出土した。実測、図示出来たものは須恵器壺(H-6-3)・壺(H-6-1・4)、土師器壺(H-6-2)・壺(H-6-5)、土製品土鍬(H-6-6・7)、古銭(H-6-8)など8点である。土器類の時期は9世紀後半～10世紀前半頃と思われる。また古銭は唐銭の開元通寶(初鋤年代 武徳四年 西暦621年)が一枚出土しているが古銭は損傷・摩耗が著しい。

床面から確認されたピット、土坑の形状寸法は下記の通り確認した。

ピット・土坑の名称	形状寸法cm				備 考
	形状	長径	短径	深	
P-1	楕円	31	22	20	北西コーナー U字形の掘り込み
P-2	楕円	28	24	16	西壁やや北寄り U字形の掘り込み
P-3	楕円	43	36	25	西壁中央 U字形の掘り込み
P-4	円	35	34	6	西壁やや南寄り 浅い掘り込みで底部に扁平の河原石出土
P-5	楕円	46	43	22	住居中央 緩やかな掘り込み。一段下がった円状の掘り込みあり
P-6	楕円	54	46	31	住居中央寄り 東側一段下がった楕円状の掘り込みを持つ
P-7	円	42	40	27	南東コーナー付近 U字形の掘り込み
P-8	楕円	30	25	17	南東コーナー付近 西側に一段下がった円状の掘り込みあり
P-9	楕円	29	26	23	東壁中央 U字形の掘り込み
P-10	円	42	41	31	北東コーナー ロート状の掘り込み。底部に丸い河原石出土
P-11	円	29	29	32	北東コーナー付近 U字形の掘り込み。底部に扁平な石出土
P-12	円	30	30	26	北壁中央付近 一段下がった掘り込みあり
P-13	楕円	40	30	33	北壁やや西寄り 東側に段差あり
P-14	楕円	43	42	48	南東コーナー U字形の掘り込み
D-1	楕円	170	124	8	南東コーナー付近 掘り込み淺く底部平坦

7号住居址(第12・13図、図版2・3)

調査区の中央やや南壁寄りC-4・5からD-4・5グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりがある炭化物・ローム粒・細砂を含む褐色・暗褐色土が堆積している。

南壁側は8号住居址と重複し、南西コーナーがごみ穴で壊されている。住居址の新旧関係は断面より本住

居址が新しい。

住居址の形状は長軸（南北方向）4.3m（推定）、短軸（東西方向）4.0mの隅丸方形を呈し、主軸方向は、N-4°-Eを測る。確認面から20cm程掘り込んで床面に達する。床面は第V、VI土層を掘り込んで平坦に作られており、全面に3~15cmの貼り床も認められ、竈付近は細砂・礫を含み全体にローム粒・炭化物などの混入が見られた。床面積は調査範囲で14.6m²を測る。壁溝は確認されなかった。

土坑は床面の中央西寄りに長径74cm・短径68cm・深さ8cmの円状を呈し、立ち上がり部分に白色粘土で厚4cm程の巻立が確認された。ピットは北西コーナー付近に長径28cm・短径25cm・深さ17cmの円状を呈している。

竈は東壁中央やや南寄りに位置し、8号住竈と近接して確認された。覆土は焼土粒・炭化物を含む暗褐色・灰黄褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-96°-Eを測る。

竈の寸法は全長100cm、焚口部幅55cmを測り、燃焼部中央には長さ35cm、幅16×10cmの支脚石と右袖側に長さ35cm、幅15×8cm程の袖石が検出された。両方の石は、ほぼ半分地中に埋め込まれていた。竈は比較的の形狀を残し、床面より10cm程掘り込まれていた。

遺物は土師器壺・壺、須恵器壺・碗などの破片と鉄製品、石など総数233点出土している。図示出来たものは土師器壺（H-7-1）、鉄製品罐（H-7-2）など2点である。時期は10世紀前半～後半と思われる。

8号住居址（第12・13図、図版2・3）

調査区の南壁寄りD-4・5からE-4・5グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある、わずかローム粒・炭化物を含む褐灰色土が堆積している。

7号住居址が北側半分を取り込んで重複している。南西コーナーがごみ穴によって壊されている。7号住居址との新旧関係は本住居址が古い。

住居址の形状は東西方向3.6m、南北方向はごみ穴で擾乱され不明、確認面から16cm程掘り込んで床面に達する。床面は第V土層を掘り込んで作られている。床面積は不明である。

ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は東壁中央やや北寄りに位置し、7号住竈と近接して確認された。覆土は焼土粒・炭化物を含む灰褐色・灰黄褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-111°-Eを測る。竈の寸法は全長105cm、焚口部幅55cmを測り、やや形状が南向きになっている。燃焼部は床面より4cm程掘り込まれている。

遺物は土師器壺・壺、須恵器壺・碗、蓋などの破片が総数で265点出土している。図示出来たものは須恵器蓋（H-8-1）、土錐（H-8-2）、土師器碗（H-8竈1）など3点である。時期は9世紀中頃～後半と思われる。

9号住居址（第13・14図、図版3）

調査区の南壁やや東寄りE-4・5グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある、わずかローム粒・炭化物・細砂を含む灰褐色・暗褐色土が堆積している。南壁側は一部調査区域外にある。東壁側は14号住居址

と重複する。新旧関係は本住居址が14号住居址を切っていることから本住居址が新しい。

住居址の形状は東西方向4.25m、南北方向は調査区外の為不明、北東、北西コーナーは隅丸形を呈している。確認面より15~20cm掘り込んで床面に達する。床面積は調査範囲で8.2m²を測る。

ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は北壁中央に位置し、覆土は焼土粒・炭化物を含む灰褐色・黒褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-23°-Eを測り、竈の寸法は全長120cm、焚口部幅62cmを測り、形状がやや東向きに作られ、竈焚口付近には長さ16cm、幅7cm程の細長い石（用途不明）を検出した。

遺物は土師器壺・壺、須恵器壺・碗などの破片が総数212点出土している。図示出来たものは土師器壺（H-9-1・2・3・竈1）、壺（H-9竈2）など5点である。時期は9世紀中～後半と思われる。

10号住居址

当初9号住居址と重複する遺構と考えられたが、調査の進捗に伴って重複と認められず、10号住居址は次番とした。

11号住居址（第15図、図版3）

調査区の東壁やや北寄りB-6・7からC-6・7グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある黒褐色土が堆積している。東壁は調査区外に位置し南壁側は埋立時のごみ穴により擾乱破壊されている。北壁側は12号住居址と重複している。新旧関係は本住居址が12号住居址を切っていることから本住居址が新しい。

確認面から5~9cm程掘り込んで床面に達する。遺構は浅く残りは良くない。

住居址の形状は北西コーナーが隅丸を呈し、他は不明である。ピット、壁溝は確認されなかった。

竈はごみ穴で擾乱されたか、調査区外に所在するか確認できなかった。

遺物は土師器壺、須恵器壺・碗などの小破片が総数16点出土している。接合、実測には至らなかった。時期は不明である。

12号住居址（第15図、図版3）

調査区の東壁やや北寄りB-6・7グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある灰褐色土が堆積している。東壁側は調査区外に位置し南壁側は11号住居址と重複している。新旧関係は11号住居址が本住居址を切っていることから本住居址が旧い。

確認面から5cm程掘り込まれて床面に達するが遺構は浅く残りは良くない。

住居址の形状は北西コーナーが隅丸を呈し、他は不明である。ピット、壁溝は確認されなかった。

竈は、調査区外のため確認できなかった。

遺物は土師器壺、須恵器壺・碗など総数11点出土している。遺物は少なく接合、実測には至らなかった。時期は不明である。

13号住居址（第16図、図版3）

調査区の南壁中央やや西寄りE-2・3グリッドに位置する。覆土は粘性、締まりのある暗褐色土と黒色土と灰褐色土の混土が堆積している。南壁側は調査区域外のため不明である。

確認面から5~10cm掘り込んで床面に達する。遺構は浅く残りは良くなかった。

住居址の形状は北東、北西コーナーが隅丸を呈し、その他は調査区域外にあり確認できなかった。

ピット、壁溝、竈は確認できなかった。

出土遺物は土師器壺片が1点と極めて遺物が少ない。

14号住居址（第14図、図版4）

調査区の南壁やや東寄りに位置しE-5・6グリッドに位置する。覆土は粘性で締まりのある暗褐色土が堆積している。南壁側は調査区域外に位置し西壁側は9号住居址と重複する。新旧関係は本住居址の西壁を9号住居址が切っていることから本住居址が古い。

住居址の形状は住居北東側範囲と竈範囲が残る程度で全体がはっきりしない。壁の掘り込みは浅く、わずかな範囲が確認された。

ピット、壁溝は確認されず住居北壁側に土坑1か所を確認した。形状は長径110cm、短径64cm、深さ5~7cmの楕円状で底部に2か所（北側と南側）径21×20cm深さ20cm前後の掘り込みが2か所確認された。

竈は東壁側に位置し一部が調査区外にある。覆土は灰、細砂を含む暗褐色・灰黄褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-102°-Eを測る。

竈の寸法は全長110cm、焚口部幅55cm、燃焼部は床面より10cm程掘り込まれている。

出土遺物は土師器・須恵器壺片や羽釜片など総数12点出土している。接合、実測には至らなかった。

15号住居址（第7図、図版4）

調査区の西側中央付近C-1からD-1・2グリッドに位置する。覆土は粘性、締まりのある灰褐色・暗褐色土が堆積している。

東壁側は北寄り一部をごみ穴により擾乱破壊されている。東壁側の竈の部分は4号住居址の西壁を、北壁側は2号住居址の南壁をそれぞれ取り込んで構築されている。南壁側は3号住居址に、西壁側は1号住居址に取り込まれて重複していることから新旧関係は2、4号住居址より新しく、1、3号住居址より古い。

住居址の形状は南北方向4.2m、東西方向不明。確認面から18~20cm掘り込んで床面に達する。床面は第V土層を掘り込んで作られている。床面積は調査範囲で10.0m²を測る。

壁溝は確認されず、ピットは東壁の竈の北側から径30×30cm、深さ10cmを確認した。土坑は竈南側より楕円状で長径56cm、短径50cm、深さ22cmを確認した。土坑は確認した位置や土器、石などの遺物が出土していることから貯蔵穴と思われる。

竈は東壁中央やや南寄りに位置する。覆土は粘性で締まりのある焼土粒、灰、炭化物などを含む黒褐色・灰褐色土が堆積している。竈の主軸方向はN-80°-Eを測る。

竈の寸法は全長80cm、焚口部幅70cm、を測り、燃焼部は床面より9cm程掘り込まれている。

遺物は土師器壺・壺、須恵器壺・碗や羽釜の破片など総数196点出土している。図示出来たものは土師器壺(H-15-4・壺1)、須恵器碗(H-15-3)・羽釜(H-15-1)、土師質土器壺(H-15-2)など10世紀前半～後半と思われるもの5点と他に石鎌(H-15-5)を検出した。

(2) ピット (第17・18・19図、図版4)

住居範囲と同じ面や遺構内に大小45ヶ所のピットが確認された。形状は円または楕円で灰褐色、暗褐色土が堆積し掘り込みが段をなすものや底に扁平の河原石を据え、礎石に使用したと思われるピットも確認された。遺物は土師器、須恵器片など數点複数のピットより検出した。

ピットは掘立柱建物の柱穴と考えられるが平面的に柱穴数、方向、間隔等が一定せず明確にすることができなかったので、ピットとして一覧表に記載した。

ピット一覧表 その1

単位cm：()は推定値を示す

No	遺構位置 (グリッド)	形状寸法				備考
		長径	短径	深	形状	
1	B-1	25	-	17	円	U字形に掘り込まれている
2	B-1・2	22	-	7	円	底部は平坦で浅い
3	B-1	30	25	14	楕円	底部東壁側に掘り込みあり 土師、須恵器片2点出土
4	C-1	42	-	23	円	底部平坦 土師、須恵器片13点と石出土
5	C-1	50	40	26	楕円	底部中央に掘り込みあり 土師、須恵器片5点出土
6	C-1	18	-	15	円	底部平坦 Pitとほぼ同じ大きさの石1点と土師片1点
7	C-1	42	33	15	楕円	Pit上部と底部に大小の石2個と土師、須恵器片5点出土
8	D-1	37	-	17	円	底部東壁側が掘り込まれている 土師、須恵器片3点
9	D-1	33	(20)	21	楕円	底部平坦 Pit10と北壁側が重複 土師、須恵器片3点
10	D-1	29	(22)	13	楕円	U字形の掘り込み Pit9と重複 石1点出土
11	D-1	50	39	22	楕円	底部平坦 土師、須恵器片7点出土
12	D-1	(46)	40	13	楕円	底部平坦で石があり Pit13と北壁側で重複 土器片3点
13	D-1	33	(24)	12	楕円	底部平坦 土師、須恵器片2点出土
14	D-1	43	35	18	楕円	底部平坦 土師、須恵器片3点出土
15	D-1	30	-	13	円	底部平坦
16	D-2	47	-	31	円	底部平坦 土師、須恵器片8点出土

ピット一覧表 その2

単位cm: ()は推定値を表す

No	遺構位置 (グリッド)	形状寸法				備 考
		長径	短径	深	形状	
17	B-2	30	-	13	円	底部平坦
18	A-3	23	-	8	円	底部平坦で浅い 土師、須恵器片2点出土
19	C-4	24	-	23	(円)	底部より使用痕のある石が出土(P-19-1) Pit20と重複
20	C-4	40	(35)	26	(楕円)	底部U字形 Pit19・21と重複 石出土
21	C-4	26	-	24	(円)	底部U字形 Pit20と西壁側で重複 土器片3点出土
22	C-4	30	-	23	円	底部平坦 土師、須恵器片2点出土
23	C-4	30	27	16	楕円	底部U字形 土師器片2点出土
24	C-4	32	(28)	22	楕円	底部平坦 東壁側でPit25と重複
25	C-4	32	(30)	29	楕円	底部掘り込みあり Pit24と重複 須恵器片1点出土
26	C-4	49	-	20	円	底部平坦
27	C-4	44	-	23	円	底部U字形 使用痕のある石1点出土(P-27-1)
28	D-4	18	14	9	楕円	ピットが小さく掘り込みが浅い
29	A-5	70	62	13	楕円	底部丸みを持ち掘り込みが浅い 土器片2点出土
30	A-5・B-5	32	-	9	円	底部平坦 東壁側よりなだらかな掘り込みあり
31	B-6	20	-	18	円	西壁側一段下がった掘り込み 須恵器片1点出土
32	B-6	29	-	9	円	底部掘り込みあり
33	C-6	36	-	25	円	底部一段下がった掘り込みあり Pit34と重複
34	C-6	26	23	10	楕円	底部丸みを持ち浅い Pit33と重複
35	C-6	26	-	17	円	底部U字形 土師器片1点出土
36	C-6	32	-	10	円	底部平坦
37	C-5	30	-	20	円	底部平坦 土師器片1点出土
38	C-6	28	24	13	楕円	底部平坦
39	C-6	50	45	30	楕円	底部中央にU字形の掘り込みあり
40	D-6	66	50	18	楕円	底部中央に掘り込みあり 土師器片3点出土
41	D-6	43	40	10	楕円	底部平坦 土師器片3点出土
42	D-6	40	38	13	楕円	底部東壁側に掘り込まれている 土師器片3点出土
43	D-6	32	-	18	円	西壁側に掘り込みあり 土師器片1点出土
44	C-6	21	-	25	円	底部西壁側に掘り込みあり
45	D-6	35	-	14	円	底部西壁側に掘り込みあり

(3) 土 坑 (第 19 図)

全体で 1 か所北東隅に確認した。

形状は橢円で口径が大きいわりに掘り込みが浅く、灰褐色土が堆積していた。

遺物は出土していない。用途は不明である。

形状は、下表の通りである。

土 坑 一 覧 表

単位 cm : () は推定値を表す

No	遺構位置 (グリッド)	形状寸法				備 考
		長径	短径	深	形状	
1	B - 6	134	116	8	橢円	底面平坦浅い掘り込み

第4章 まとめ

前田II遺跡は北側を主要地方道高崎・駒形線が走り、南側は水田農業地帯が広がる一角にある。周囲はかつて広瀬古墳群と称され県内屈指の古墳群が所在していた地域で今も貴重な古墳が点在している。

本遺跡では住居址14軒、ピット45か所、土坑1基と遺物として土師器、須恵器、土師質土器、灰釉陶器、鉄製品、古錢、石製品、土製品などを検出した。

住居址について

本遺跡で確認された住居址の14軒は確認面までの深さが180~180cmの盛土と旧耕作土で堆積されていた。構造の一部が建築廃材のごみ穴によって擾乱破壊されたものや調査区域外にかかる遺構もあった。また調査区西壁側や南壁側では著しい重複等が見られ、出土遺物から極めて短い期間に住居の変遷があったことが窺える。

住居址の形態は隅丸の方形、長方形で竈は東向きが殆どで一部の竈でコーナーに位置するものや、北向きに位置するもの、また住居址に対してやや形態が斜めに向いているものなどが確認され、余り規則性は見られなかった。また竈の袖石や支脚石に用いた河原石も検出した。

ピット、土坑は3・5・6・7・14・15号住居址に確認され、とくに6号住居址壁際には多数のピットが見られ、その中の数個のピット底面より礎石と思われる扁平な河原石が確認されている。

床面は硬い砂質ロームで作られており、床面が潤滑状態である6・7・8号住居址は暗褐色土中に焼土粒、炭化物、灰等を混ぜて貼り床にしたと思われる。

遺物は遺構全体よりほぼ完形成品や破片、小片など多數検出されて復元できるものも数点検出されている。

出土遺物は土師器、須恵器の环・碗・甕等の破片を中心に総数約2627点出土している。時期は9世紀~10世紀代の平安時代の遺物が検出されている。

前田遺跡(1991年3月調査報告書)の住居形態とも似ており、出土遺物等もほぼ同時期の遺物が見られるなど、前田遺跡と連続する同時期の遺跡と考えられる。

ピットについて

ピットは調査区の東壁側、中央付近、西壁側区域からまとまって平安時代の遺構の確認面に見られ、住居址内外付近に点在し、ほぼ円形・楕円形で二段に掘り込まれていたものや底部に扁平な河原石を礎石として用いたものなどを確認した。ピットは規則性がなく住居址に付設されたものか掘立柱建物址として掘られたものかはっきりとらえられなかった。

時期的には住居址からは9世紀~10世紀代の遺物が出土しておりピットからも同時期の土器片が見られることからピットは住居址とほぼ同時期かそれ以後に設けられたものと思われる。

土坑について

調査区北東寄りに1か所確認され形状は椭円形で掘り込みは浅く、遺物の検出はなく時期は不明であるがピットと同じ層で確認していることから同時期の土坑と思われる。

参考文献

- 猪里・陣塔遺跡 1981 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
中尾遺跡 (遺物編) 1984 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
下東西遺跡 1987 群馬県教育委員会
(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
芳賀東部団地遺跡 II 1988 前橋市教育委員会
元總社明神遺跡 III 1991 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

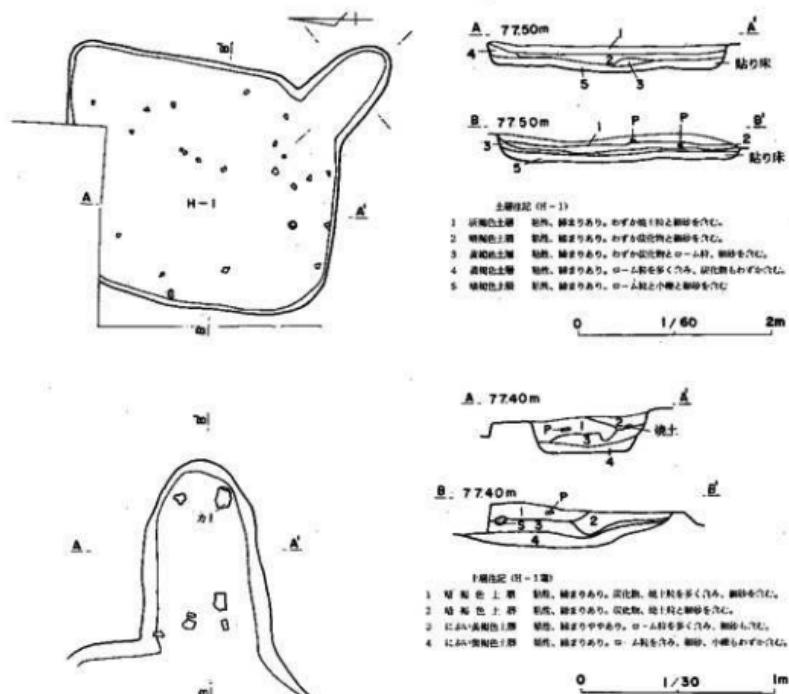
出土遺物観察表

注: 法量は①口徑②底径③高台径④高さ⑤長幅等の厚さはcm、⑥重さはgを表し、()は推定値を示す。

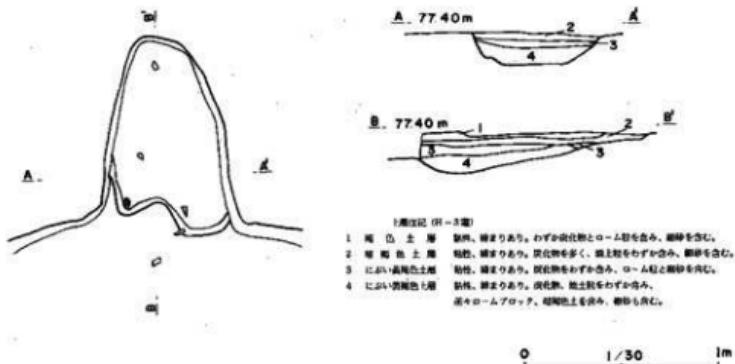
NO	出土場所	種類	法量	地質成	色調	器形・成形・変形の特徴	保存構造	因縁
1	H-1-1	土師質環	② 7.5	粗・酸化	純い緑	高台部は焼れておりヘラの当りが数点見られる。底部外側下位に不規則方向のナゲ、内面ナゲ、ロクロ整形、底部回転条切り、付高台。	部分	5
2	H-3-1	土師質環	②(5.8)	普通・酸化	緑灰	底部はわずか上塗質味。全体は直線的に開き、外側ロクロ整形、内面ナゲ、底部回転条切り。	分残	5
3	H-3-2	瓦石	⑤ 8.5 ⑥ 3.5 ⑦ 2.3 ⑧ 91.97	-	灰オリ -ブ	四面使用、表面平滑化。石質は粘板岩。	-	8
4	H-4-1	土罐	⑤ 4.4 ⑥ 1.6	透元	緑灰	⑨ 9.58 穿孔径 0.8	ほぼ完形	8
5	H-4-2	擦石	⑤ 11.6 ⑥ 0.4 ⑦ 3.2 ⑧ 500	-	-	椎円形、扁平な自然形。片面擦痕跡あり。	-	5
6	H-5-1	土師器底	①(21.4)	普通・酸化	純い緑	口縁部は「コ」の字状を呈し、内外面ナゲ。背部は外側へラ削り、内面ナゲ。	口縁部分残	5
7	H-5-2	須恵器高台付盤	①(13.3) ② 6.2 ④ 2.9	普通・透元	明オリ -ブ灰	底部は外側直立、内側外傾する高台。体部は直線的にロクロで緩やかに外反する。ロクロ整形、底部回転条切り、付高台。	分残	5
8	H-5-3	土師器底	①(11.0) ② 3.7	普通・酸化	純い緑	底部はわずか丸味を帯びる。体部は緩く内側へ縁部に至る。底部内側、口縁部外側へラ削り。底部へラ削り後ナゲ、内面ナゲ。	分残	5
9	H-6-4	鉄製品	⑤ 0.7	-	-	現存長 30.4 ⑩ 70.80 棒状の鉄製品。時計不明。	-	8
10	H-6-5	鉄製品	⑤ 4.0 ⑦ 0.3	-	-	現存長 12.7 ⑪ 85.74 身部が弯曲し背側が丸い。小型。	-	8
11	H-6-6	石	⑤ 25.4 ⑥ 16.0	-	-	⑫ 5.8 ⑬ 3529 椎円形、自然石使用感あり。	-	8
12	H-6-D-1-1	須恵器底	①(13.0) ② 3.2	普通・透元	灰	底部は外側直立。体部は横に段を持ち直線的に立ち上がり口縁部でわずか外反する。内面ナゲ、ロクロ整形、底部回転条切り。	分残	5
13	H-6-1	須恵器底	①(12.9) ② 3.7	透・透元	灰	体部は緩やかに弯曲し口縁部で外反する。ロクロ整形、底部回転条切り、高台部はがた。	分残	5
14	H-6-2	土師器底	①(13.0) ② 5.6 ④ 4.1	透・透元	純い赤 緑	底部は平底。体部は緩やかに内側へ口縁部に至る。底部、体部下間にラ削り。内面黒色。	分残	5
15	H-6-3	須恵器底	①(12.6) ② (5.9) ④ 3.5	粗・透元	灰	底部は外側直立。底部回転条切りで外反する。ロクロ整形、底部回転条切り未調査。	分残	5
16	H-6-4	須恵器底	①(14.0)	粗・透元	灰黒	体部は下端部に若干の張りを有し直線的に外反する。体部外側ロクロ痕、内面ナゲ。底部回転条切り、高台部欠損。	口縁部分残	5
17	H-6-5	土師器底	①(19.4)	普通・酸化	純い緑	口縁部は「コ」の字状の凹曲が弱く、口縁部に比較的。内外面回転条のへラ削り。内面ヘラナゲ、口縁部内外面ナゲ。	口縁部分残	5
18	H-6-6	土罐	⑤ 4.5 ⑥ 1.9	酸化	純い緑	⑩ 15.47 穿孔径 0.4	完形	8
19	H-6-7	土罐	⑤ 3.2 ⑥ 2.9	酸化	灰黒	⑪ 18.97 穿孔径 0.4	ほぼ完形	8
20	H-6-8	貨幣	⑤ 1.97	-	-	古鏡、唐銭の開元通寶(初鋳年代 武健四年 西暦621年)	-	8
21	H-7-1	土師器底	①(12.2) ② 3.3	粗・酸化	純い緑	底部は平底状。体部は緩やかに内側へ口縁部で外傾する。口縁部外側ナゲ、体部へラ削り後ナゲ、内面ナゲ。	分残	5
22	H-7-2	鉄製品	⑤ 2.7 ⑦ 0.3	-	-	現存長 11.3 ⑩ 55.72 身部全体がわずか弯曲する。刃先端欠損。小型。	-	8
23	H-8-1	須恵器底	①(18.6) ② 8.7 ④ 2.2	やや粗・透元	灰	器高が低く天井部中央がやや凹むが、ほぼ平坦。体部は外傾して開き端部に丸味を持つ。ロクロ整形、天井部回転条切り痕を残す。	分残	5
24	H-8-2	土罐	⑤ 4.8 ⑥ 1.7	透元	灰	⑩ 16.73 穿孔径 0.5	完形	8
25	H-8-3	土師器底	①(15.4) ② 7.0	普通・酸化	純い緑	底部は丸底形状。体部は緩やかに内側へ中位で段をつけて口縁部に至る。口縁部外側ナゲ、体部底押さえ接合部のへラ削り後ナゲ、内面押さえ接合ナゲ。底部へラ削り。	分残	6

註：位置は①口徑②底径③高台部器高④長の順で序は cm、⑤重は g で表し、() は推定値を示す。

N.O.	出土場所	種類	法 重	胎土構成	色 調	器形・成形・整形の特徴	保存状 態	回数
26	E-9-1	土師壺環	①(12.0) ② 3.5	粗・酸化	褐	底部は不安定な平底。体部は内側気味に立ち上がり口縁部でわずか外傾する。底部はへら削り後ナデ、内面刮抨さえ。口縁部内外面ナデ。	残	6
27	E-9-2	土師壺環	① 12.0 ② 9.1 ④ 3.7	粗・酸化	焼い褐	底部は不安定な平底。体部は内側気味に立ち上がり口縁部でわずか外傾する。底部から体部へら削り後ナデ、口縁部内外面ナデ、指圧痕残る。	完形	6
28	E-9-3	土師壺環	①(5.5)	粗・酸化	明赤褐	底部は平底。体部は緩やかに内側し口縁部に至る。底部から体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ、底部刮抨さえ。	残	7
29	E-9-1	土師壺環	②(9.0)	粗・酸化	焼い褐	底部は平底。体部は緩やかに内側し口縁部上端で外傾する。体部内外面へら削り後ナデ。	残	7
30	E-9-2	土師壺環	①(4.6)	普通・酸化	暗褐	底部は小径で平底。肩部は直線的に立ち上がり上段で膨らむ。外面腰斜位のへら削り、内面ナデ。	崩下位～ 底部残	7
31	E-15-1	羽茎	①(20.0)	普通・還元	褐灰	口縁部は内側し口唇端部は平坦で外側がやや突起状になっている。身は上向き気味の断面三角形を呈す。内外面張ナデ。	口縁部44 現	7
32	E-15-2	土師圓瓶	① 11.7 ② 4.7	粗・酸化	明褐色	高台部は短く、体部は中位で内側し口縁部で外反する。ロクロ形、内面ナデ、底部凹凸系切り後付高台ナデ。	ほぼ完形	7
33	E-15-3	圓底圓瓶	①(14.6) ②(5.7) ④ 6.0	粗・還元	灰	高台部は短く外反し、体部は丸みを持って立ち上がり口縁部で外反する。ロクロ形、底部凹凸系切り後付高台ナデ。	残	7
34	E-15-4	土師壺環	①(12.0) ② 3.5	普通・酸化	焼い褐	底部は平底。体部は緩やかに外傾し口縁部に至る。体部外面ナデ、底部へら削り後ナデ。	残	7
35	E-15-5	石繩	② 2.9 ③ 1.5		明赤褐	② 8.2 ③ 10.4 (石材) チャート (毛状) 四基無基盤	完形	8
36	E-15-6	土師壺環	①(12.2) ②(5.2)	粗・酸化	焼い褐	底部は平底。体部は緩やかに外傾し口縁部に至る。体部外面へら削り後ナデ、口縁部内外面ナデ。指圧痕残る。	残	7
37	F-19-1	石	② 15.7 ③ 13.1			② 5.2 ③ 1540 片面に使用痕跡を認む。自然縫。		8
38	F-27-1	石	② 28.0 ③ 18.8			② 5.1 ③ 5300 片面に使用痕跡を認む。自然縫。		8

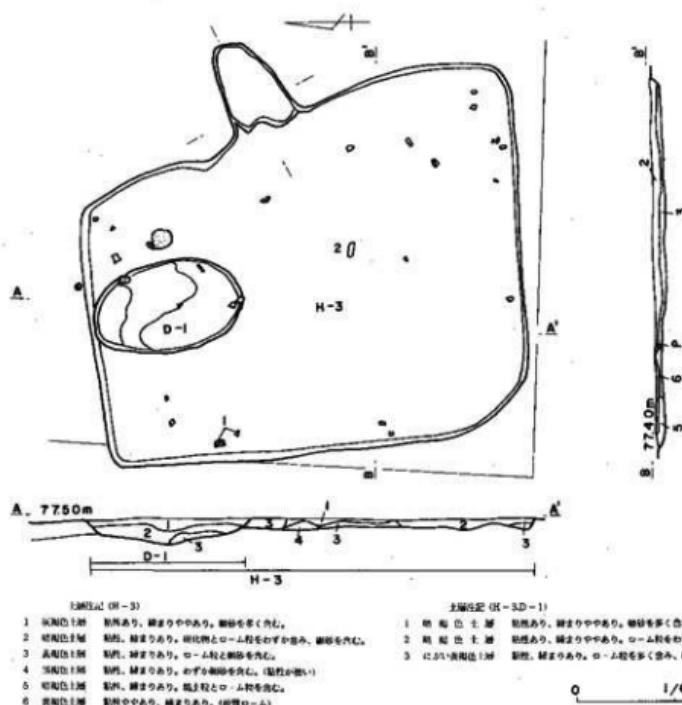


第3図 1号住居址・竪実測図

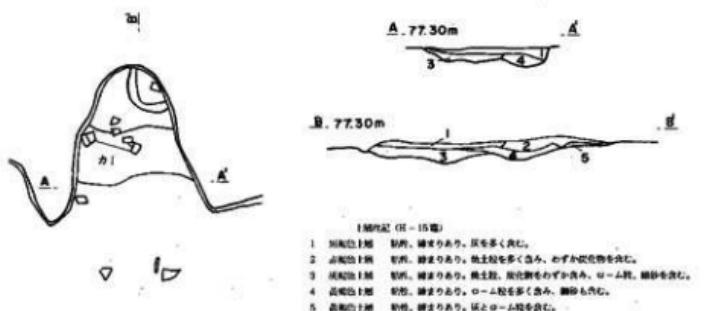


第4図 3号住居址竪実測図

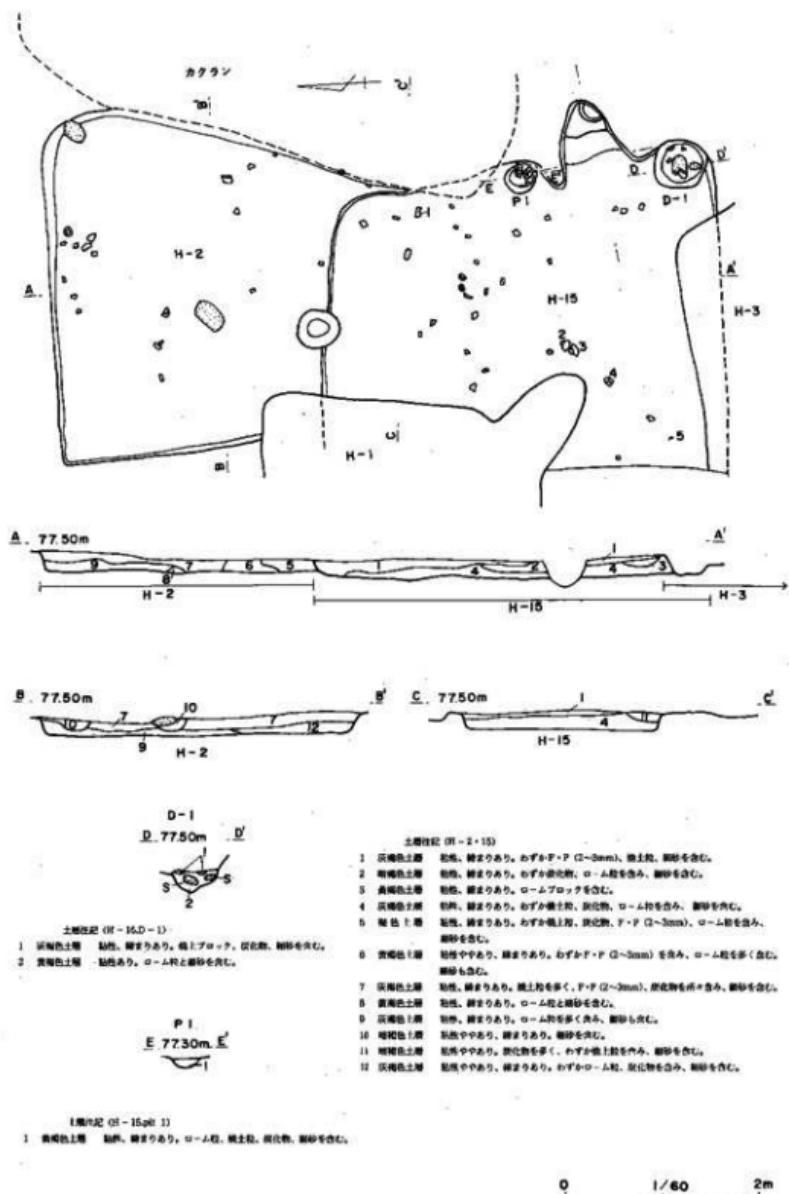
遺構実測図 2



第 5 図 3号住居址実測図

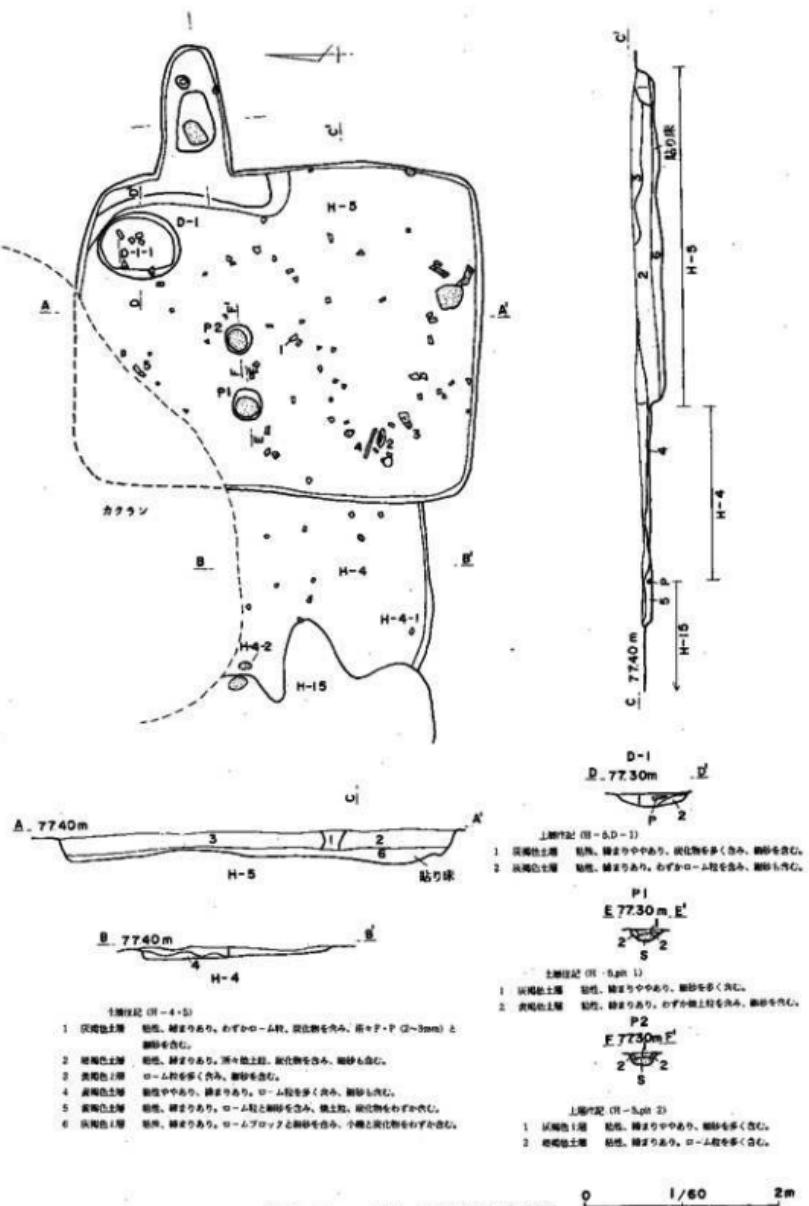


第 6 図 15号住居址実測図

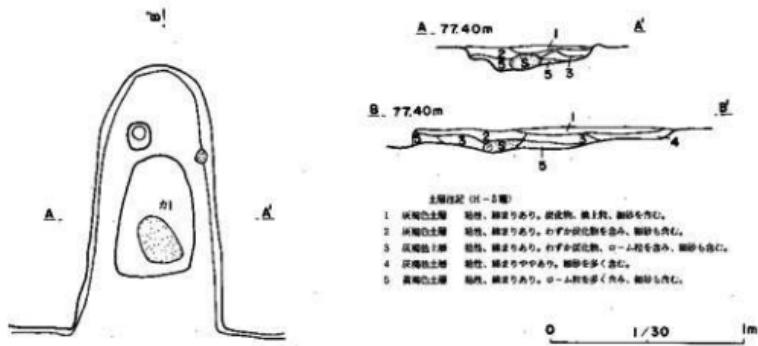


第7図 2号・15号住居址実測図

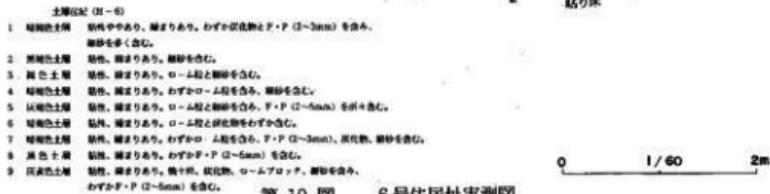
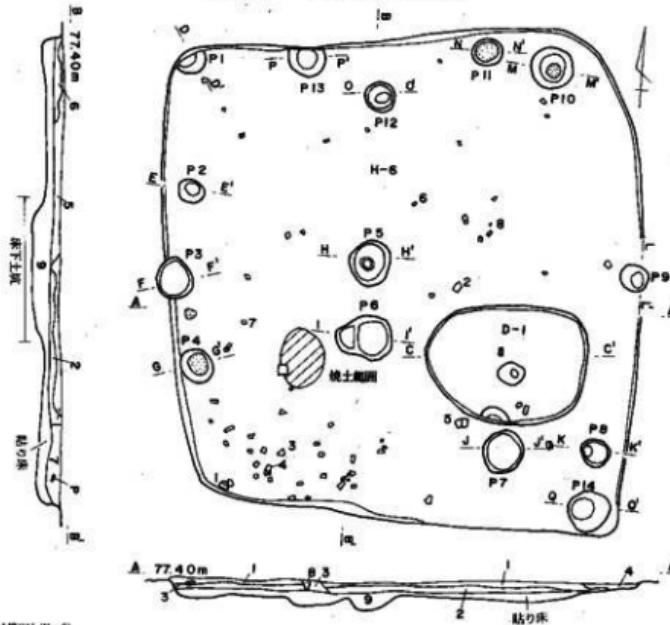
遺構実測図 4



第8図 4号・5号住居址実測図

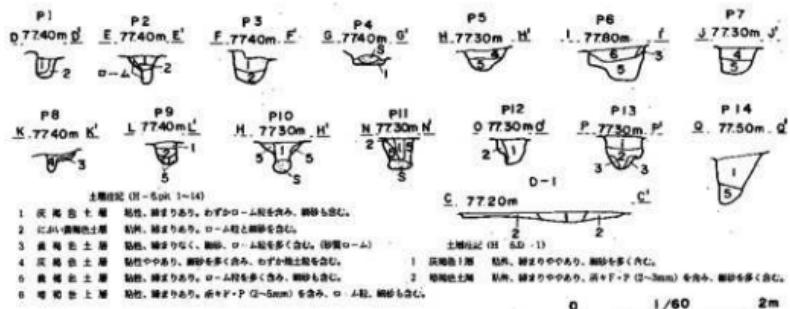


第9図 5号住居址実測図

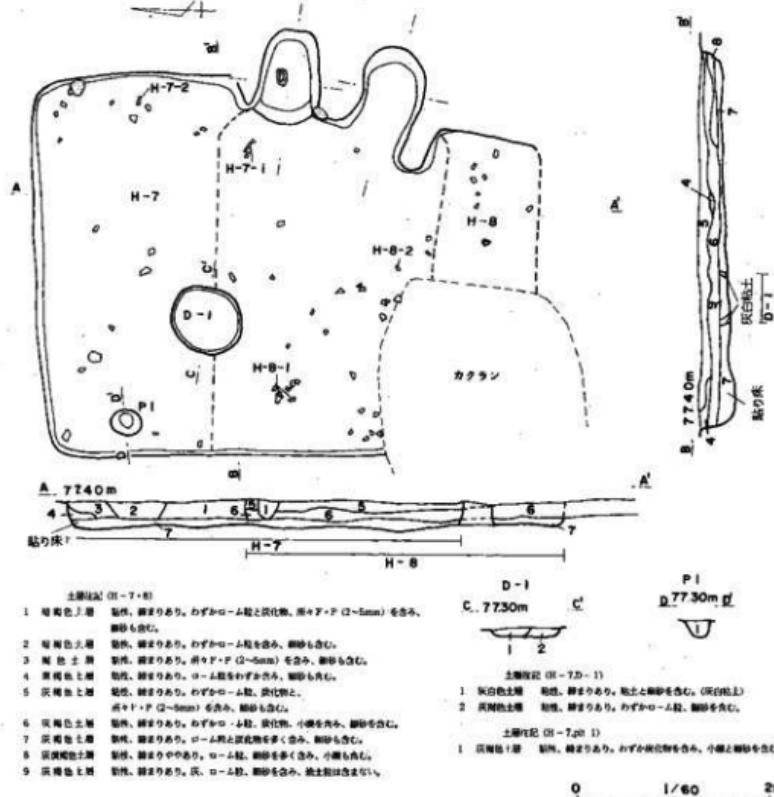


第10図 6号住居址実測図

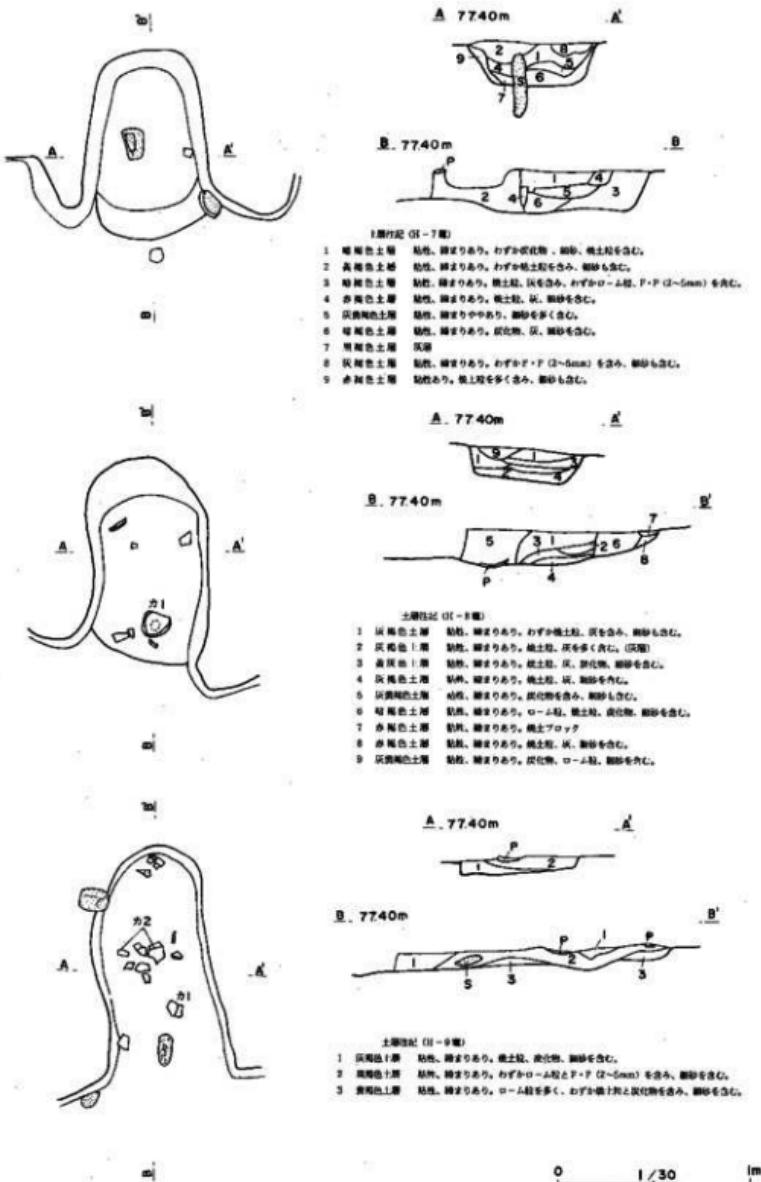
遺構実測図 6



第 11 図 6号住居址土坑・ピット実測図

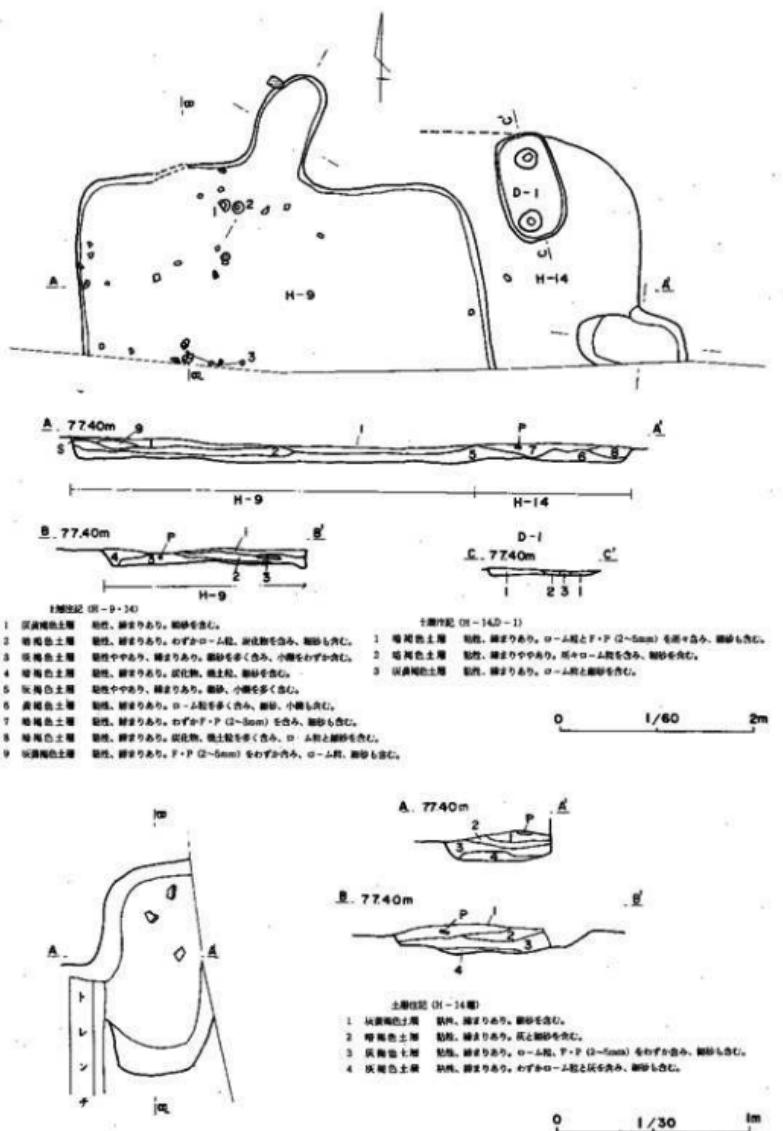


第 12 図 7号・8号住居址実測図

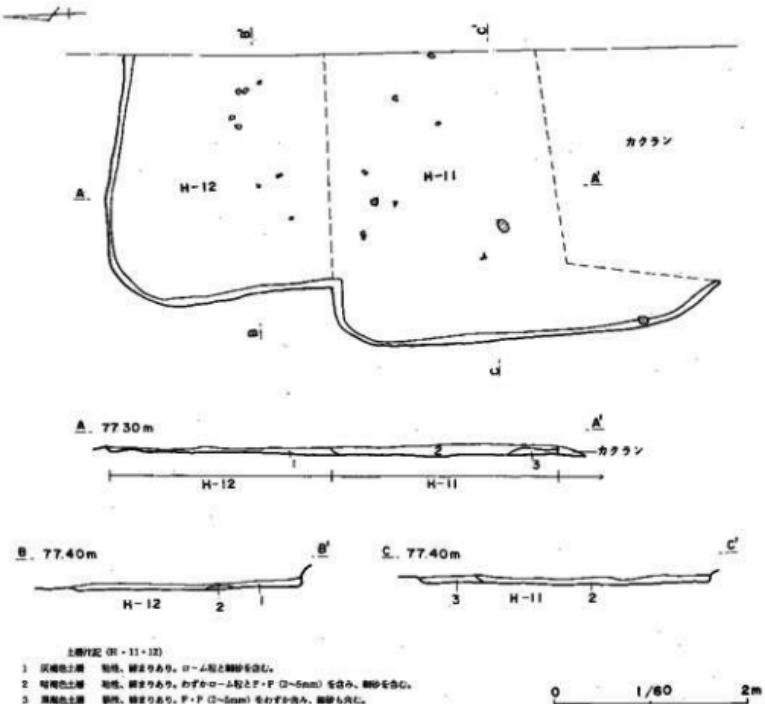


第 13 図 7号・8号・9号住居址竪実測図

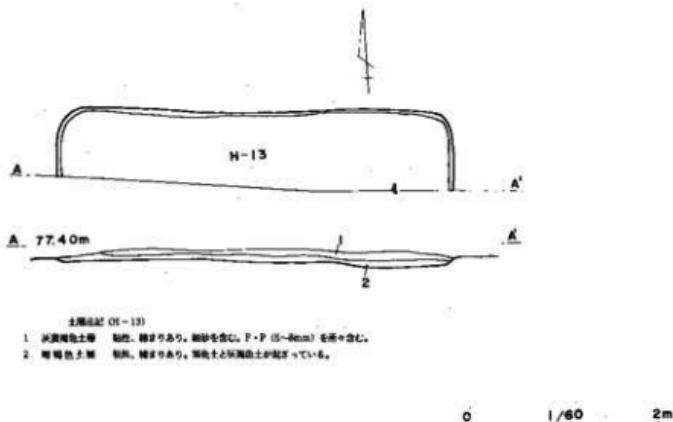
遺構実測図 8



第 14 図 9号住居址・14号住居址・竈実測図

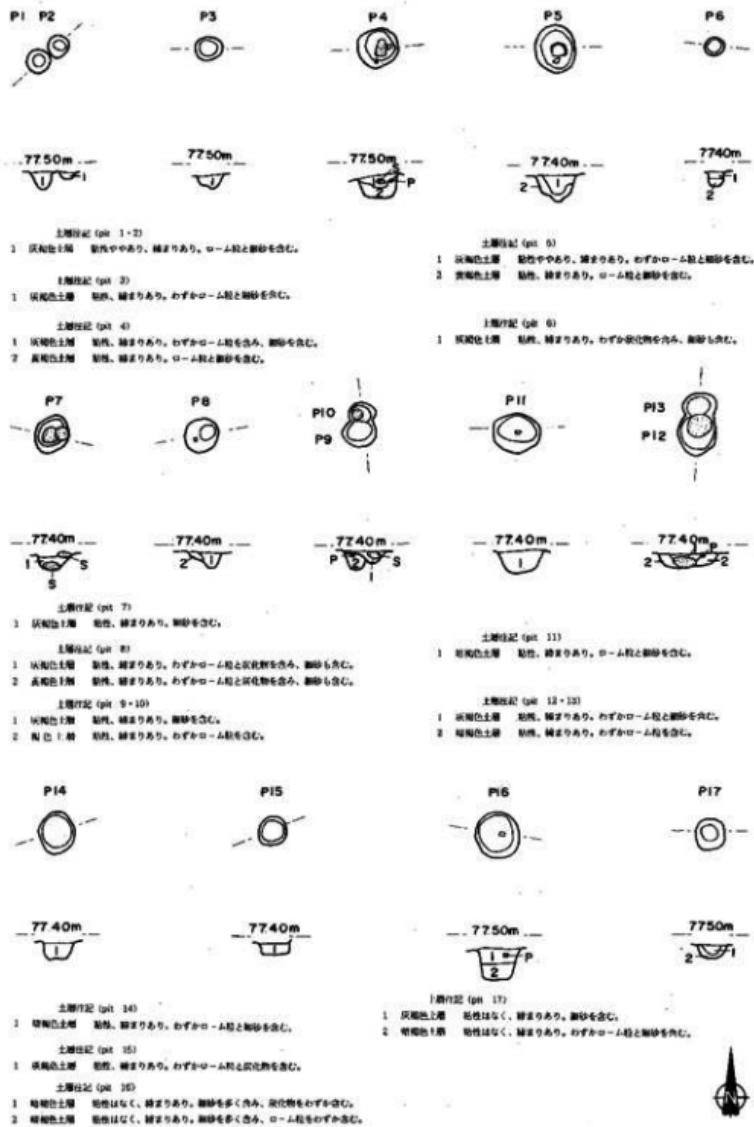


第 15 図 11号・12号住居址実測図



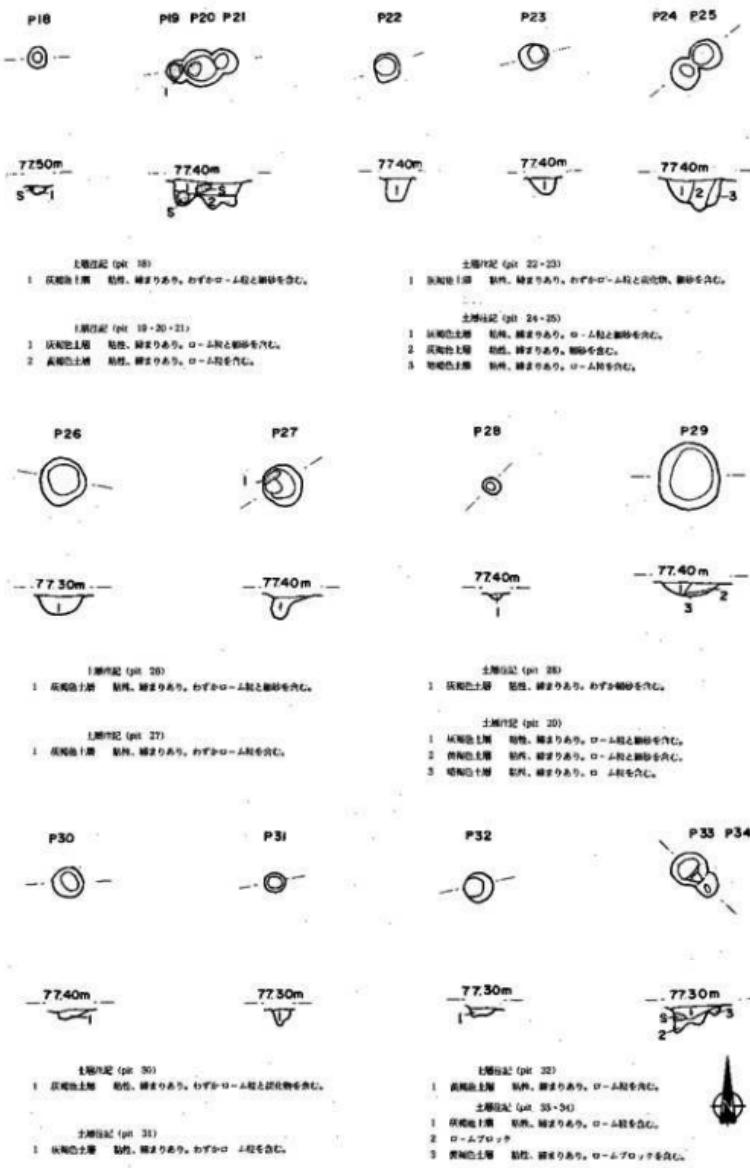
第 16 図 13号住居址実測図

透構実測図 10



第 17 図 Pit1~17 実測図

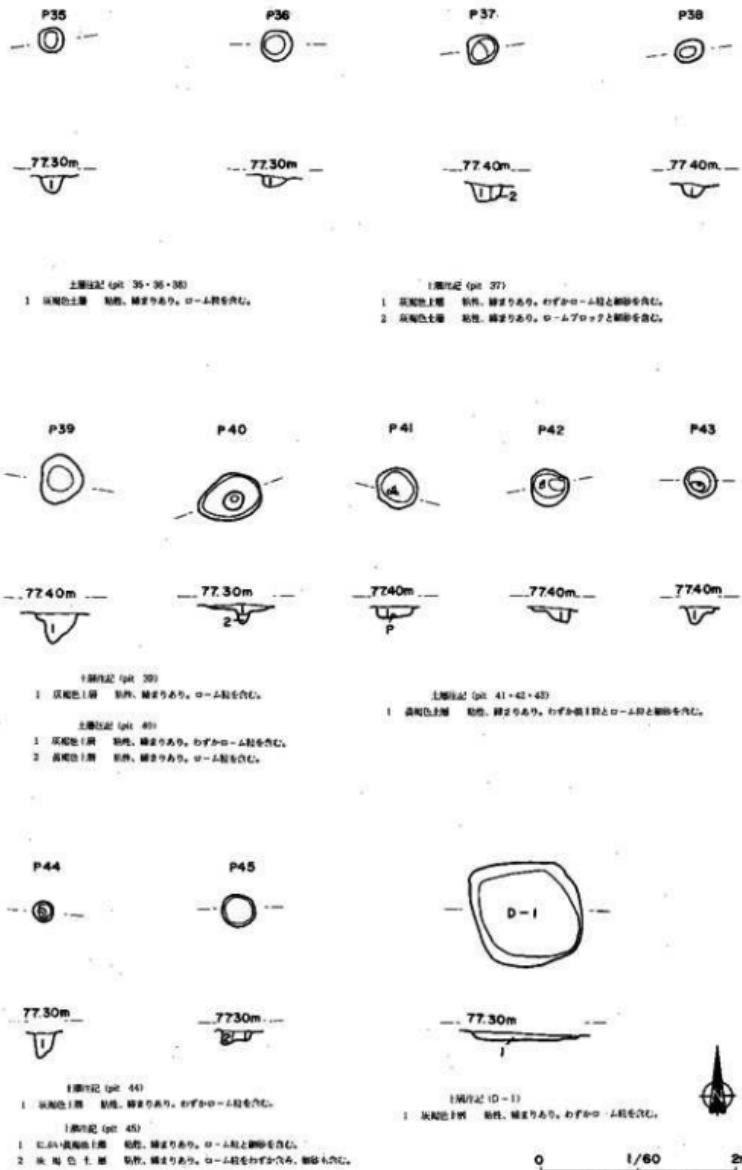
0 1/60 2m



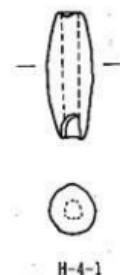
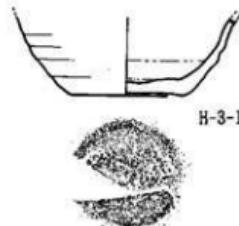
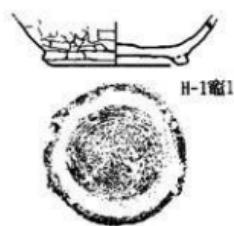
第 18 図 Pit18~34 実測図

0 1/60 2m

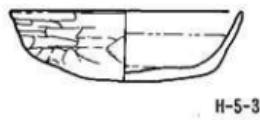
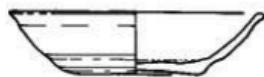
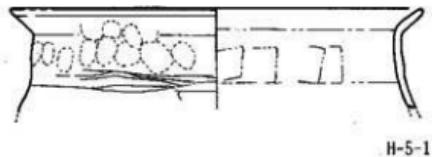
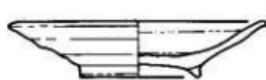
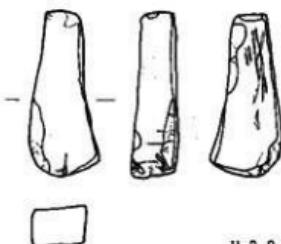
造構実測図 12



第 19 図 Pit35~45・1号土坑実測図

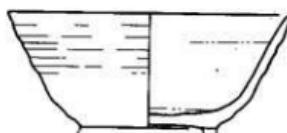
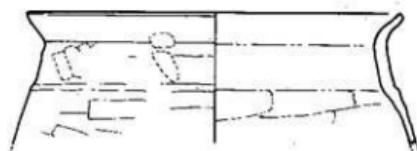
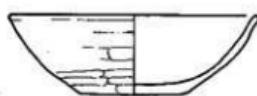
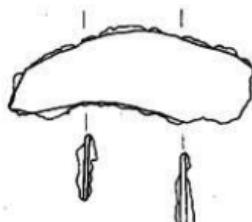
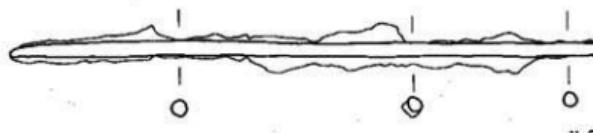


0 1/2 5cm

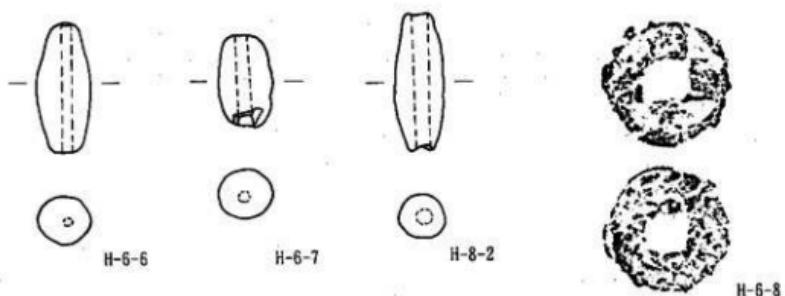


0 1/3 10cm

遺物実測図 2

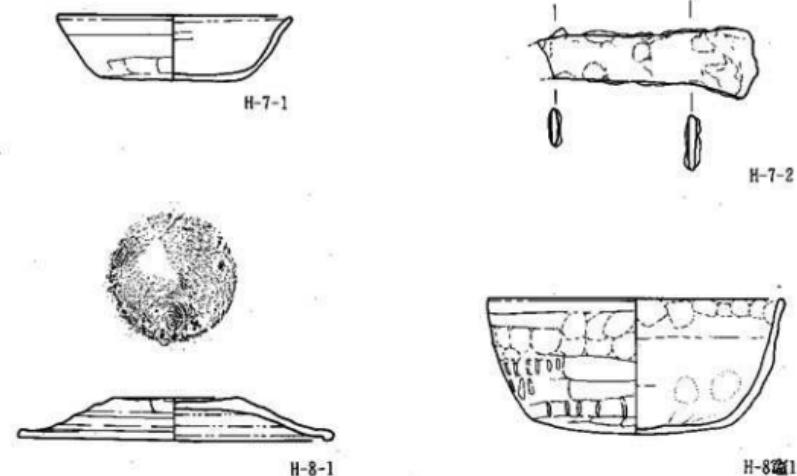


0 1/3 10cm



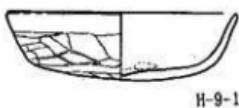
0 1/2 5cm

0 1/2 2.5cm



H-8-1

H-8-2a1



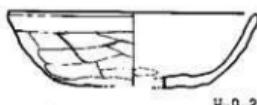
H-9-1



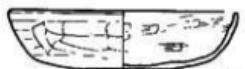
H-9-2

0 1/3 10cm

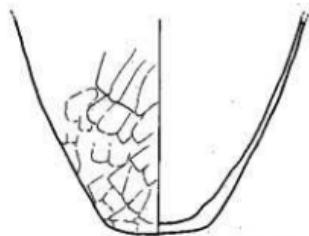
遺物実測図 4



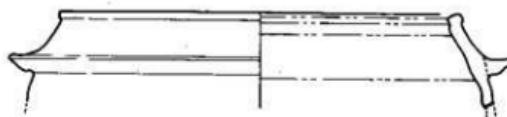
H-9-3



H-9-1



H-9-2



H-15-1



H-15-2



H-15-3



H-15-4



H-15-5

0 2/3 3cm

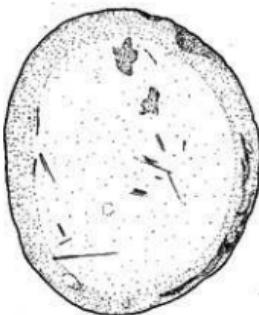


H-15-1

0 1/3 10cm

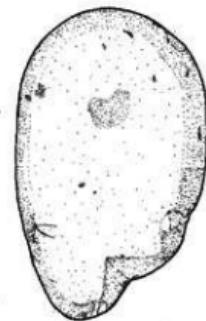


H-4-2

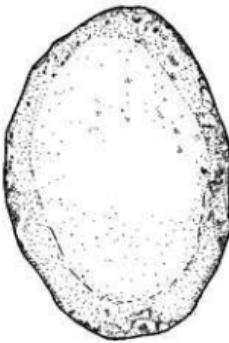


P-19-1

0 1/3 10cm



H-5-1



P-27-1

0 1/5 20cm



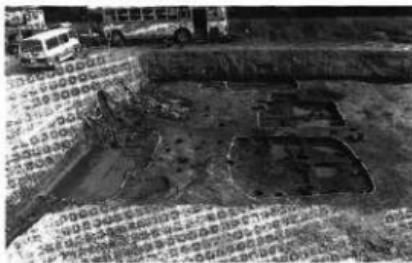
調査前現況（北東より望む）



調査前現況（南東より望む）



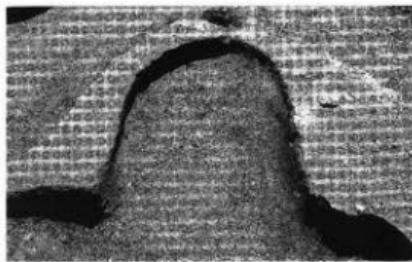
調査区西側



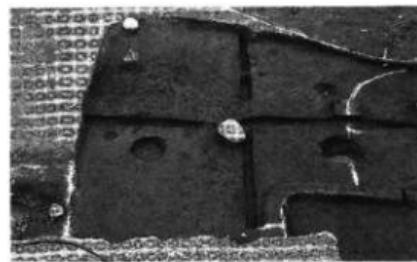
調査区東側



1号住居址



1号住居址竪



2号住居址



3号住居址

图版 2



3号住居址竈



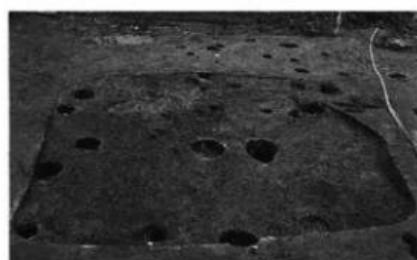
4号·5号住居址



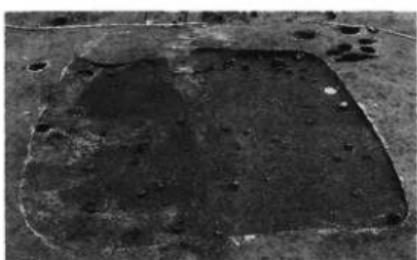
4号·5号住居址遗物出土状况



5号住居址竈



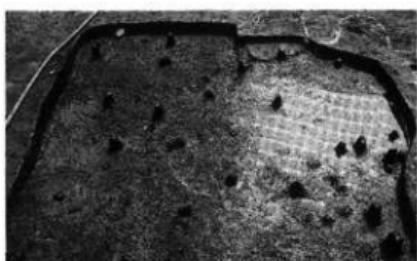
6号住居址



6号住居址遗物出土状况



7号·8号住居址



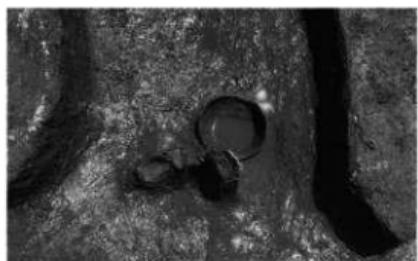
7号·8号住居址遗物出土状况



7号住居址竈



8号住居址竈



8号住居址出土遗物



9号住居址



9号住居址遗物出土状况



9号住居址竈

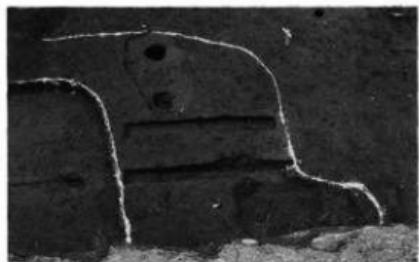


11号・12号住居址

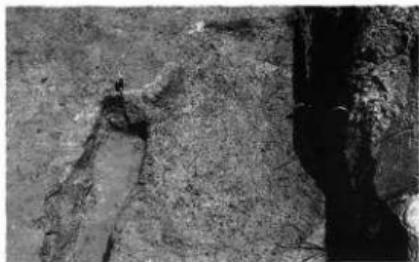


13号住居址

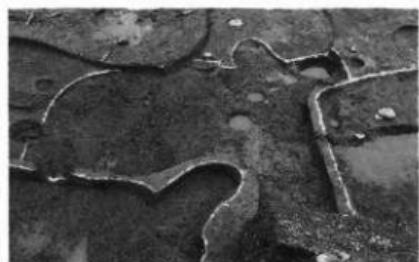
図版 4



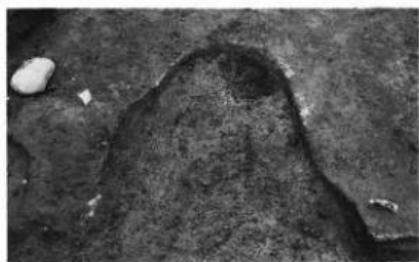
14号住居址



14号住居址竪



15号住居址



15号住居址竪



15号住居址遺物出土状況



調査区西側ピット群



調査区中央ピット群



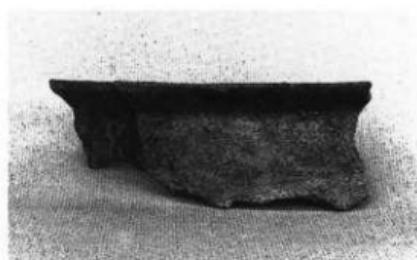
調査区東側ピット群



H - 1 麻1



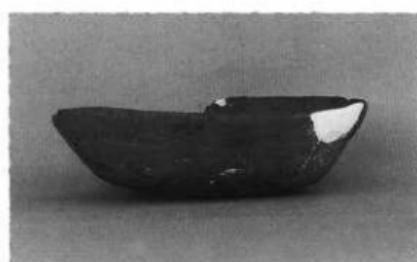
H - 3 - 1



H - 5 - 1



H - 5 - 2



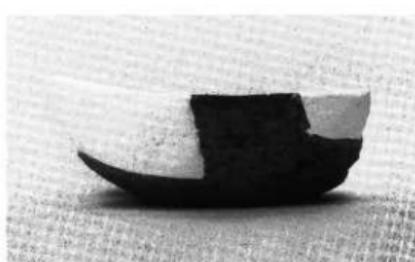
H - 5 - 3



H - 5,D - 1 - 1

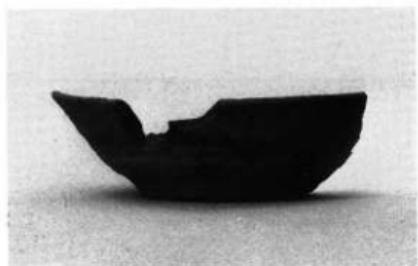


H - 6 - 1

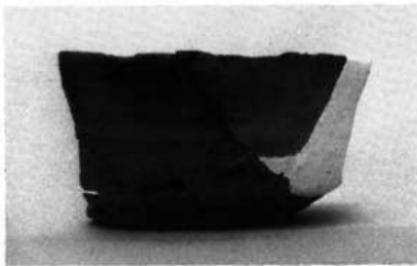


H - 6 - 2

図版 6



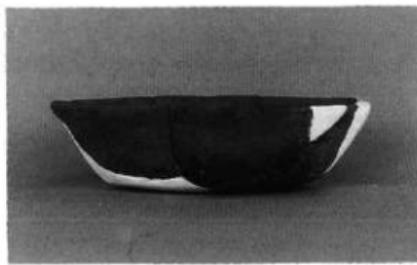
H - 6 - 3



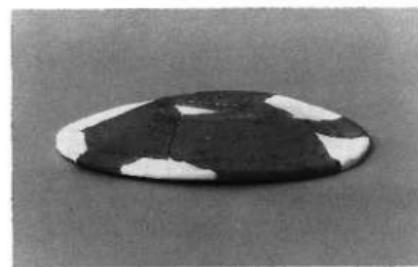
H - 6 - 4



H - 6 - 5



H - 7 - 1



H - 8 - 1



H - 8 瓶 1



H - 9 - 1



H - 9 - 2



H - 9 - 3



H - 9 瓢 1



H - 9 瓢 2



H - 15 - 1



H - 15 - 2



H - 15 - 3

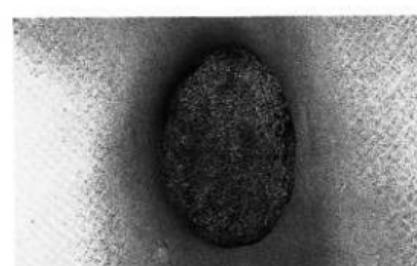
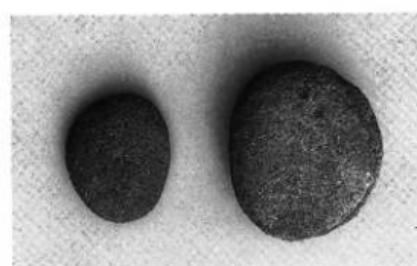
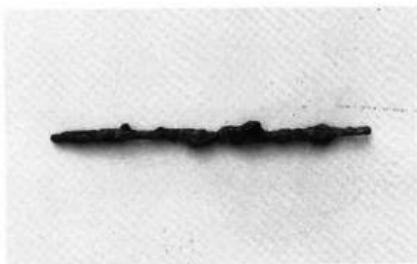


H - 15 - 4

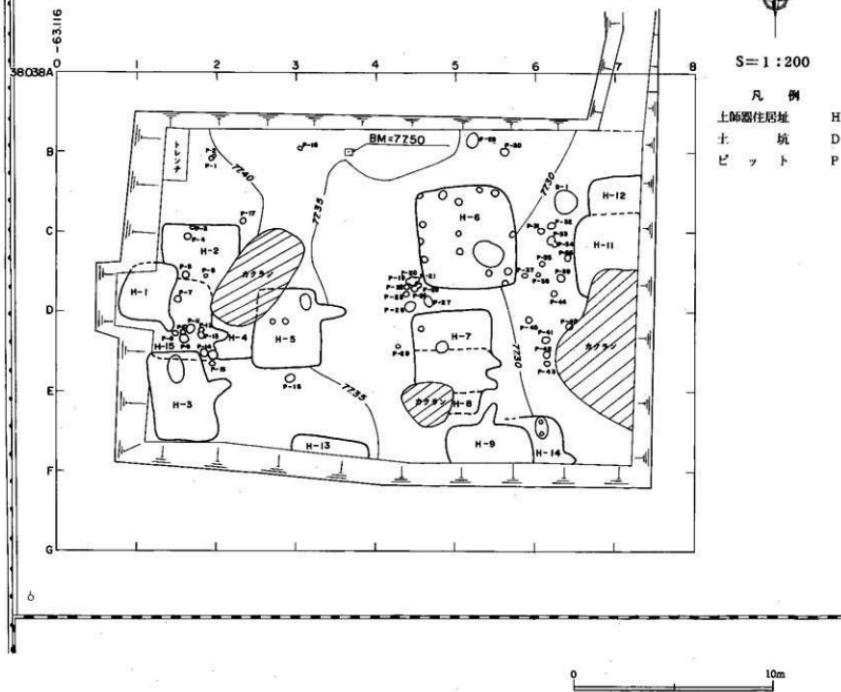


H - 15 瓢 1

図版 8



第20図 前田II遺跡全体平面図 (3G-7)



13・ティ・ティ中央移動通信群馬支店社屋
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

前田Ⅱ遺跡

平成3年12月5日 印刷
平成3年12月10日 発行

発行者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4

編集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1

印刷 有限会社サクラヤ印刷所
前橋市石倉町一丁目5番7号



